

週刊 タバコの正体

タバコの3大有害物質である「ニコチン」「タール」「一酸化炭素」のうち、「一酸化炭素」と「ニコチン」について知ってもらいましたので、今回は最後の「タール」を紹介します。

タールとは、タバコの葉に含まれている有機物質が熱分解された粒子で、約4000の化学物質の結合体でもあります。タバコのフィルターを茶色くさせるヤニのことで、この粒子が細胞に付着するとガンの原因となるのです。

下は、タバコの煙を液体に溶かす実験の画像です。1本目(写真左)に火を付けた時はボトルの水は透明ですが、150本目(写真中)でかなり色がつき、400本目(写真右)で真っ黒になってしまいました。

Metacafe inc. "Still Smoking? Watch This!!"から



毎日20本吸い続けた場合、20日間でこんなに真っ黒なタールが身体のどこかにへばりついているわけです。約1ヵ月でこの量ですから、20年も30年も吸い続けるとどうなってしまうのか想像するのが恐ろしくなりますが、現実には下の写真のように、タールが蓄積した肺は黒く変色してしまいます。

こんな事実を知ってしまえば、タバコに手を出す人はいないでしょうし、吸い始めなくて良かったと思うはずです。

タバコを吸わない事に自信を持って下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久



肺がタールにより黒く変色。